

授業評価アンケート結果(2018 秋)

担当者：杉本憲彦

科目名：物理学 II(実験を含む) 「気象を物理で語る」

実施時期：秋学期最終講義日

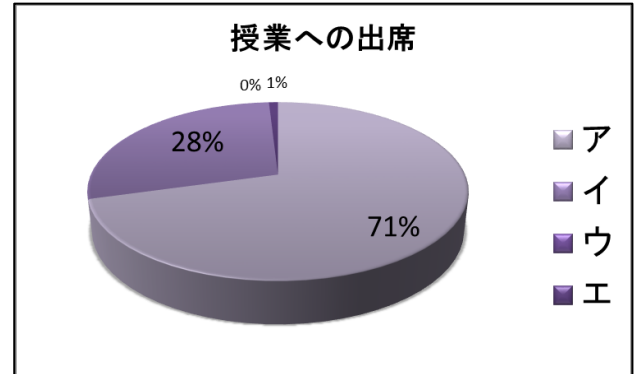
科目設置：日吉

履修者数：117 名

回収数：109 名

1. 授業への出席

ア 全部出席した	77 人
イ ほとんど出席した(80%程度)	31 人
ウ あまり出席しなかった(50%程度)	0 人
エ ほとんど出席しなかった	1 人



2. 授業について

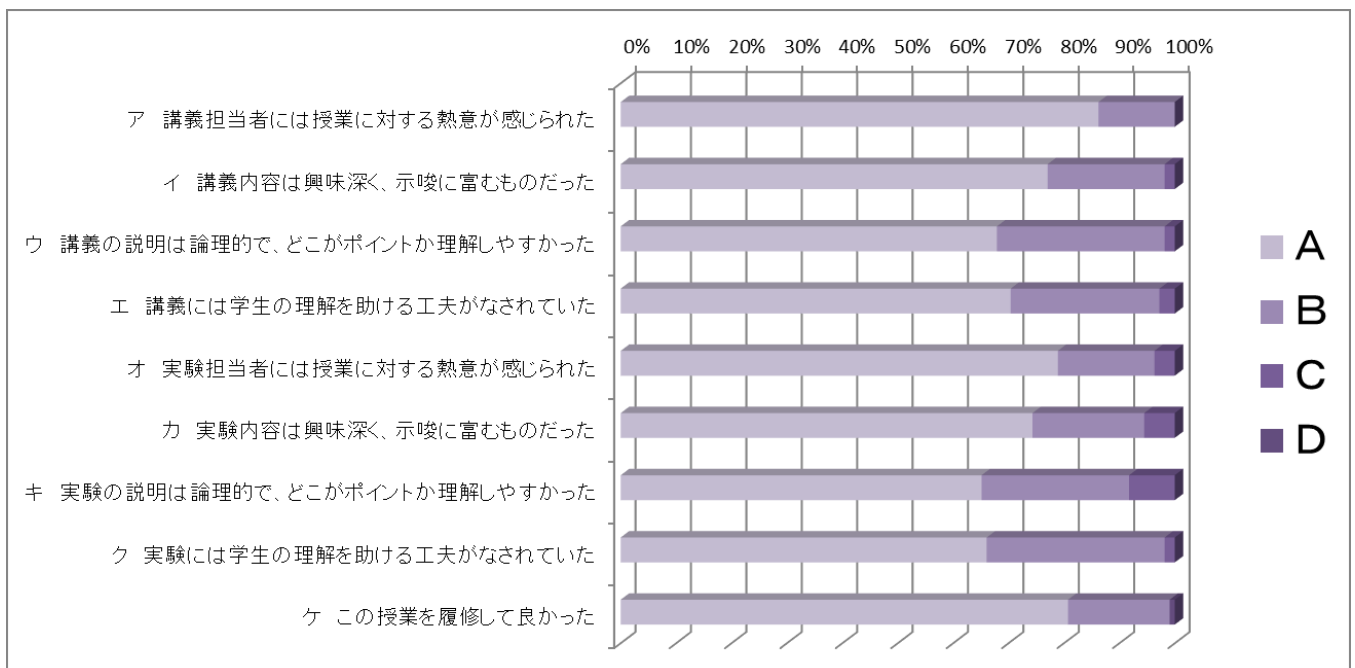
A=そう思う

B=どちらかといえばそう思う

C=どちらかといえばそう思わない

D=そう思わない

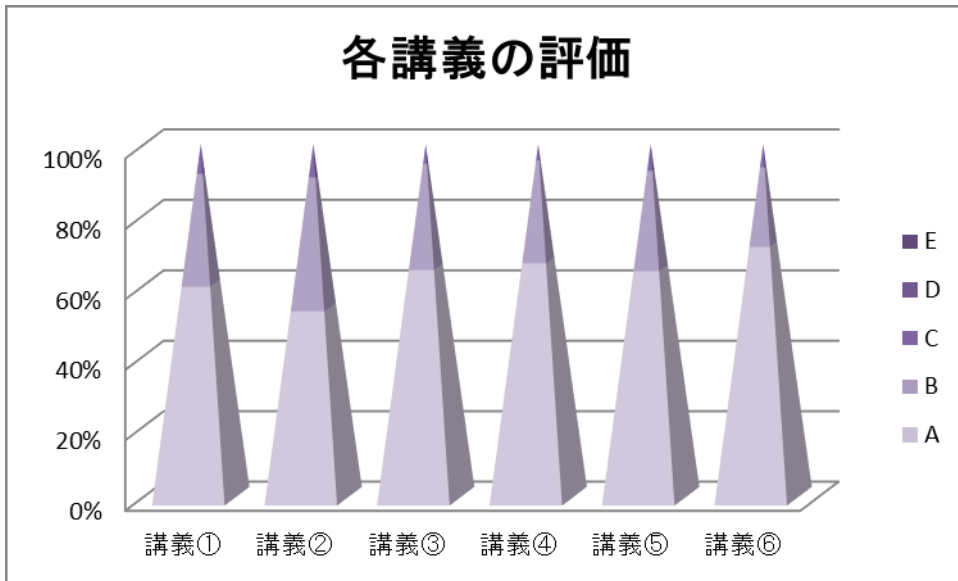
	A	B	C	D
ア 講義担当者には授業に対する熱意が感じられた	94	15	0	0
イ 講義内容は興味深く、示唆に富むものだった	84	23	2	0
ウ 講義の説明は論理的で、どこがポイントか理解しやすかった	74	33	2	0
エ 講義には学生の理解を助ける工夫がなされていた	76	29	3	0
オ 実験担当者には授業に対する熱意が感じられた	86	19	4	0
カ 実験内容は興味深く、示唆に富むものだった	81	22	6	0
キ 実験の説明は論理的で、どこがポイントか理解しやすかった	71	29	9	0
ク 実験には学生の理解を助ける工夫がなされていた	72	35	2	0
ケ この授業を履修して良かった	88	20	0	1



3. 各回の講義内容について

A=とても良かった B=どちらかといえば良かった C=良くも悪くもない
 D=どちらかといえば悪かった E=とても悪かった

	A	B	C	D	E
①大気の成り立ち - 地球の気温はどうやって決まる? -	66	34	8	1	0
②地球規模の流れ - 低気圧が西風に流されるしくみ -	58	40	10	0	0
③雲と降水 - 雲が浮かび、雨が降る理由 -	71	32	6	0	0
④気象よもやま話 - 日々の天気舞台裏 -	73	31	5	0	0
⑤明日の天気 - 天気予報の限界とカオス -	70	30	8	0	0
⑥気候の変動 - 地球温暖化と現代物理学 -	78	24	7	0	0



4. 自由記述(以下は主観による抜粋です)

- 気象に興味があったので、後期の授業で多く広く学ぶことができ、履修して良かった。
- 先生の専門に近く、自分もより興味あるテーマだったのでとても充実した講義でした。
- 数式を用いた難しい物理でなく、身近で幅広い分野について取り上げてくれたので良かった。
- 地球温暖化をデータや数値で突きつけられて、今からでも生活を変えなければならないと思った。
- いつも身近な話からはじめて、たまに難しい式などを扱いながら、丁寧にやさしく解説していた。
- 後期もとても満足できる講義と実験だった。後輩たちにもぜひおすすめしたい。
- △前期に比べて難しい部分が増えたが、最近の異常気象や温暖化を学び、地球を考える助けになった。
- △短時間で多くのトピックを扱うため、解説が概念的で深い理解ができていないが、概ね満足度は高い。
- △相対性理論の話が自分には非常に難しかった。地球の環境に対して、できることをやらねばならない。
- △実験の原理は難しかったが、きちんと結果や現象を論理的に説明できるところが面白かった。
- ×謙虚な気持ちで実験を行い、講義を受けて、それでもわからないところが多かったです。

5. 講評

講義、実験とも概ね好評であった。講義と実験の評価の差も例年より小さくなっている。後期の実験は現代物理を扱う内容が多く、計算も大変であるが、概してうまくできていたようだ。講義を通して、気象や温暖化に興味をもつ学生が複数いて良かったと思う。たくさんのトピックを総花的に扱っても、深い理解を得られるようにしたい。自由記述を参考に、さらに良い講義・実験を目指そうと思う。この授業が、身近な気象に興味を持つきっかけになり、地球の未来を少しでも考える機会になってくれれば幸いである。